

## 杏の樹の誓い

柴山 仁美 茨城県筑西市 四十八歳

「病気になったら、冷たくなった。」

庭の杏の樹の前で、夫がぼつりと呟いた。まるで心の中を見透かされたようで、私はどきりとしたの。

勿論、退院して身体も動くようになり、仕事に復帰して、無理をしながら頑張っているあなたを応援してる。尊敬もしてる。

私も、毎食量りながら調理をして、お弁当を作り、一日の塩分摂取量や食事制限、健康管理をして、今までよりずっと気にかけてもいるけど。

当たり前の日常に戻ってきて、いつのまにか今のあなたと、健康だったあなたを比べていたみたい。

(重い物は必ず持ってくれたなあ)(高い所の作業は危ないから全部やってくれたなあ)なんて、今まで甘えて頼ってきた、してもらえなかった事を数えて、嘆いていたのかもしれないね。

入院していた頃は、「元気になれば他には何もいりません」そう神様に毎日お願いしていたのに。

元気になったら植えようと約束した杏の樹は、一年目から可愛い花をたくさん咲かせたけど、しばらくすると全て落ちてしまい、代わりに葉を茂らせ枝を伸ばし始めた。

実が成るには早かったみたい。私達も結婚生活二十六年とはいえ、病後生まれ変わったあなたとは、まだ二年しか一緒に過ごしていないもの。今はしっかりと根を張り、幹を太くする杏の樹のように、お互い助け合い、身体を気遣う時期なのかもしれない。

これから二人で、たくさんの実を結ぶことが出来るように。